

第1部

講演

総司会 ● 堀内 玲子（山梨県がん患者サポートセンター・ピアサポーター、NPO 法人日本がんサバイバーシップネットワーク理事）



治療と仕事の両立をさまざまな立場から考える

高橋 都 NPO 法人日本がんサバイバーシップネットワーク代表理事、
岩手医大客員教授

岩手県出身。内科医。2013～2020年に国立がん研究センターがんサバイバーシップ支援部長として両立支援の研究と情報発信に従事。同時期、がん治療を受けながら働く夫を家族として支えました。



治療とハードワークの両立に挑んでみた

菊地 文彦 岩手銀行取締役常務執行役員

舌がん経験者。グループ会社代表を兼務していた2022年11月に発病。のべ4か月にわたる入院期間中は、仕事と治療の両立に果敢に挑戦。全国紙への投稿や取引先向けの講演活動を行っています。



がんを越えて働くということ ～当事者と人事部門の立場から～

村本 高史 サッポロビール株式会社人事総務部プランニング・ディレクター、
NPO 法人日本がんサバイバーシップネットワーク副代表理事

頸部食道がん経験者。勤務先では2014年秋より専門職として社内コミュニケーション強化や治療と仕事の両立支援策を推進。これまで厚生労働省「がん診療連携拠点病院等の指定検討会」構成員や「厚生科学審議会がん登録部会」臨時委員も務めています。



医療機関における両立支援の実際 ～病院で仕事の相談できます

近藤 昭恵 岩手医大医療福祉相談室ソーシャルワーカー

岩手県出身。大学卒業後、医療ソーシャルワーカーとして勤務。お一人おひとりの思いに丁寧に耳を傾け、その方らしく安心して生活できるよう、一緒に考え、サポートしていくことを大切にしています。



産業医・相談員の立場から治療と仕事の両立支援を考える

田鎖 愛理 岩手医大公衆衛生学講師、岩手産業保健総合支援センター相談員

岩手県出身。1995年に肺癌で父親が他界。2005年自治医科大学卒業後、岩手県内の公立病院で精神科医として勤務しながら岩手医科大学大学院を修了。産業医経験を積み、2016年より現職。2025年より産保センター相談員としても活動しています。

第2部

パネルディスカッション

司会 ● 秋山 美紀（慶應義塾大学教授・NPO 法人日本がんサバイバーシップネットワーク副代表理事）

第1部登壇にコメンテーターが加わり、「両立支援」について語り合うとともに、みなさまからのご質問にお答えします。



コメンテーター 小島 俊一 中小企業コンサルタント、
NPO 法人日本がんサバイバーシップネットワーク理事

経営者として「働く仲間は企業の財産」をモットーに、がんサバイバーも守り、疲弊する地方書店の再建を果たしました。現在は、講演会活動や中小企業向けコンサルタントとして、働く人や中小企業に元気と勇気を届けています。

【お問い合わせ先：NPO 法人日本がんサバイバーシップネットワーク事務局 contact@jcsurvivorship.net】